

平成 26 年度 港区立芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ 第三者評価結果概要

良いところ

<p>1. 理念・方針に則り、ぶれることのないリーダーの思いが施設づくりに繋がっている</p> <p>運営理念でもある、～共に生きる居場所として～「育ちあいから育てあいの場へ」「一人ひとりの成長の場へ」「安心と安全の場（ホットスペース）へ」の下、全ての世代（利用者）と職員が共感・共鳴しあえる関係づくりが行われている。また、「職員の心得＝十訓＝」を常に念頭に置き、利用者の思いを実現するために、職員が黒子に徹し、業務に臨んでいる。これらの内容を踏まえ、毎月発行している広報誌「あいらんばん」で利用者等に館長の所感を掲載するなど、利用者や職員に館長の思いを伝えている。館長や副館長の思いは職員の利用者への対応や関係づくりに反映され、利用者の満足に繋がっている。これらは8年をかけて作り上げてきたものであり、利用者の兄弟姉妹に世代を超えて引き継がれ、高齢者も加齢の中で受け止め、利用者による利用者のための施設づくりが行われている。今後は、10年をひとつの節目とし、何らかの情報発信をしていきたいと考えている。</p>	<p>3. 子ども達が自ら考える力を養う活動が行われている</p> <p>館内のルールとして、人に迷惑をかけないという約束を基に、束縛感を感じさせない対応を行っている。子どもの携帯用ゲーム機の使い方について保護者からの意見もあり、職員も同様の問題意識を持っていたため全体職員会議で検討した結果、携帯ゲーム機の利用を禁じることは簡単ではあるが、子どもが自分の問題として考え、自ら対策を導き出すことにより、より良い結果に繋がると考えた。現在、子ども達が考えた遊ぶ際の「お約束」を掲示し、ルールに沿って使用できるよう職員が見守っている。</p>
<p>2. 利用者が利用者のことを思いやり、「利用者から担い手へ」が実践されている</p> <p>利用者同士が世代を超えて、思いやり、支えあう関係づくりが行われている。高齢者は施設を使うことに、ありがたいという感謝の気持ちから恩返しをしたいと、折り紙教室等のボランティアに申し出てくれたり、子ども達が工作で使う材料（牛乳パック集め）に協力してくれたりしている。また、世代間交流の一環で高齢者が小学生にピンポンを教えて一緒に楽しんでいる中で、子どもとの活動が苦手な人は、自分はピンポンを教えるのではなく雑巾を縫って子どもに貢献したいと、あくまでも利用者の視点を大切にした自然発生的なボランティア等が生まれている。利用者自らがほどよい距離感を見定め、利用者同士、無理の無い良い形で「利用者から担い手へ」が実践されている</p>	<p>4. 乳幼児から高齢者まで多彩なプログラムを実践し、楽しんでいる</p> <p>乳幼児から児童、高齢者まで多彩なプログラムを用意し、館内の掲示や広報誌「あいらんばん」で利用者等に伝えている。乳児向けの「ぴよぴよタイム」では、保護者と赤ちゃんとのスキンシップやコミュニケーションの他、保護者の友達づくりや育児の情報交換の場となっている。その他、「ベビーママヨガ」「たんぼぼクラブ」を実施している。「子育て安心プロジェクト」では、保健師や助産師、栄養士等が子育ての悩みに答えたり、子どもの身長や体重等を計測したりしている。児童プログラムでは陶芸教室やクッキング、フラダンスやピンポンなど様々なプログラムを用意している。高齢者向けプログラムは一番多く、スポーツ吹き矢や毎日コツコツ体操、絵手紙や健康トレーニングなどを用意し、毎日の参加を楽しみにしている高齢者も多い。多彩なプログラムを数多く実施している中、プログラムを成長させ、新しい取り組みも行っている。環境も充実しており、体育館や工作室、本格的な陶芸用の釜まで揃っている。</p>

改善点

<p>1. 統一感や見やすさに配慮した、掲示物のさらなる工夫に期待したい</p> <p>館内にはプログラム紹介や利用方法、約束事項、注意事項、報告事項、募集事項やお知らせ等、様々な情報が掲示されている。内容はとても分かりやすく、挿絵を用いカラフルに彩られ、工夫したものになっている。一枚一枚の掲示物をみると、分かりやすいが、館内を通してみると統一感が今後求められる。表現方法や色使い、言葉の選び方、掲示物の色分け等、掲示ガイドライン（ルール）づくりを行うことが期待される。多くの掲示物があるために、誰に宛てての情報なのか、重要性や優先順位はどうか等が分かることにより、より有効な掲示物になると思われる。</p>	<p>2. 当施設の存在意義をより高めるため、次のステップの活動を期待したい</p> <p>施設の利用については、子どもは兄弟姉妹に世代を超えて引き継がれている。また、高齢者は個々の加齢のペースに合わせた利用を行い、利用者施設とが無理のない良い関係性の中でまわっている。これも8年をかけて作り上げてきたものであり、実際、利用者の姿からは安定感すら感じられる。</p> <p>一般の利用者については、利用者の固定化が懸念される場所である。特に高齢者は、今後さらに増加し、自立した高齢者がその8割近くを占める中、長期的な視野で、新規の高齢者利用の拡大を図ることを期待したい。近隣在住の高齢者には認知を上げるためのより戦略的な告知活動に取り組むなど、当施設の存在意義をより高めるための活動に期待したい。</p>
---	--